

## 平成21年12月教育委員会会議（定例会）会議録

1 日 時 平成21年12月22日（火）午前10時00分～午前11時06分

2 場 所 市役所6階 602会議室

3 出席者 [委員] 富田常世委員長、古敷谷千賀子委員長職務代理者、清水三和子委員、守谷靖委員、佐藤徳一教育長

[事務局] 大沢賢教育総務部長、内野正行学校教育部長、藤田晃教育総務部次長、中正美学校教育部次長兼学校教育課長、則武辰夫社会教育担当参事兼社会教育課長、又吉春雄生涯学習担当参事兼生涯学習推進センター所長、中村藤司保健給食担当参事兼保健給食課長、村上光利教育総務課長、関口恭一スポーツ振興課長、金子美也子文化財保護課長、斉藤雅裕所沢図書館長、齊藤仁教育センター所長、平川聖一教育総務課主幹兼教育企画室長、嶋津文行学校教育課教育指導担当主幹兼健やか輝き支援室長、小川和彦教育施設課主査

[書記] 大部稔之教育総務課主査、皆川博幸教育総務課主査

4 前回会議録の承認

5 会議の傍聴者 なし

6 開 会

本日の議案は、第34号から第36号の3件。議案第36号「平成21年度教育費予算（3月補正）について」は、予算に関する審議のため、非公開とすることとしたい旨の発議があり、全員賛成で、非公開で審議されることに決定した。

7 議 題

議案第34号 所沢市学校医等の公務災害補償に関する条例施行規則の一部を改正する規則制定について

資料に則り、中村保健給食担当参事兼保健給食課長から説明がなされた。質疑は特になし。

富田委員長の採決により、委員全員が賛成し原案どおり可決された。

議案第35号 所沢市立所沢図書館資料複写実費徴収規則の一部を改正する規則制定について

資料に則り、斉藤所沢図書館長から説明がなされた。質疑は特になし。

富田委員長の採決により、委員全員が賛成し原案どおり可決された。

議案第36号 平成21年度教育費予算(3月補正)について

資料に則り、村上教育総務課長、小川教育施設課主査、則武社会教育担当参事、金子文化財保護課長、又吉生涯学習担当参事、齊藤教育センター所長から順次説明がなされた。

《 削除 》

富田委員長の採決により、委員全員が賛成し原案どおり可決された。

8 協議事項 平成22年度全国学力・学習状況調査への参加について

資料に則り、中正美学校教育部次長から説明がなされた。

以下、質疑。

(守谷委員)

所沢市では全国学力・学習状況調査のほかに類似の調査を実施しているようですが、具体的に説明していただきたい。

(中正美学校教育部次長)

市内の中学校では全国規模で行われている学力調査を基にした「ステップアップ調査」を実施しており、全国平均との比較が可能になっています。また、小学校でも人間地区、県平均との比較が可能な学力検査を実施していますので、全国学力・学習状況調査を利用しなくても影響はないものと考えます。

(清水委員)

全国学力・学習状況調査には、生活習慣の調査も含まれていると思うが、所沢市で実施している調査でも把握できるのか。

(中正美学校教育部次長)

県の3つの達成目標等により各学校の実情が毎年調査され、生活習慣や状況の把握はできていますので、引き続き継続されるものと考えています。

(佐藤教育長)

教育センターで実施している実態調査を紹介してみたらどうか。

(齊藤教育センター所長)

教育センターでは毎年、中学校15校を3グループに分け、生活実態調査を実施しており、経年変化の把握は可能です。

(佐藤教育長)

児童生徒や保護者にとって学校教育に求める最も大きな要素は学力の向上で、学校経営の基盤となるものです。全国学力・学習状況調査が始まる前に、所沢市の児童生徒の学力向上のためのプログラムを作成し、学力調査を実施しました。その後、埼玉県が3つの達成目標による学力調査や全国学力・学習状況調査が実施されるようになったものです。そういった点で所沢市の取組みは先進的なものであり、それが継続して積み重ねられてい

ますので、全国学力・学習状況調査に参加しないことで、児童生徒の学力が把握できないということにはなっていません。

(古敷谷委員長職務代理者)

学力調査の対象はランダムに抽出されるのか。中学校は概ね全国との比較が可能のようなので、小学校についてある程度の比較ができるのであれば、費用面も含め、現在実施しているものでよろしいように思うが。

(中正美学校教育部次長)

どのような抽出方法になるかは現在のところ不明ですが、先ほど教育長からも話がありましたように、所沢市で実施している調査により学力等の把握はある程度可能であり、参加しない場合でもそれほど影響はないものと考えています。

(内野学校教育部長)

今回どのような抽出になるのかは全く分かりませんが、統計学上は数パーセントの抽出で傾向が掴めるとされています。現在、どのような抽出にするか様々な検討がなされているところだと思います。仮に抽出から漏れた際の参加の意思を表明するか否かの予備調査では、どちらにも対応できるように回答しましたが、最終的には1月の教育委員会会議でご審議いただきたいと考えています。

(富田委員長)

校長会等の意向はどうか。

(中正美学校教育部次長)

校長会も、現在実施している調査で十分補える、とのことでした。

(古敷谷委員長職務代理者)

保護者からの意見はどうか。

(中正美学校教育部次長)

個人的なものはありませんが、団体からは全国学力・学習状況調査を中止したほうがいいというご意見がありました。

(古敷谷委員長職務代理者)

逆に、是非参加して欲しいという声はないのか。

(中正美学校教育部次長)

特にありません。

(富田委員長)

国が教育施策に活かすためのものであると考えられるが、傾向を掴むだけでいいのか、個々の指導に活かすためのなかで考え方が変わってくると思う。

(内野学校教育部長)

傾向を掴むために、例えば中学校を5校ずつ3年間かけて実施するのが望ましいと考えていますが、ランダム抽出による一部の学級の児童生徒に対してのみの実施となると、授業時数のアンバランス等の問題も出てきます。今後、国や県、他市町村の動向をみて対応していきたいと思います。

9 報告事項

第63回成人のつどいについて（社会教育課）

講座開催のお知らせについて（生涯学習推進センター）

10 その他

・教育委員会1月定例会：1月27日（水）午後1時30分～ 602会議室

・教育委員会2月定例会：2月19日（金）午前10時～ 602会議室

11 閉会 午前11時06分